

2009 - 47

活動名称	共生を軸とした認知症地域支援の取り組み～支えられる存在から支え合う力を生み出す存在へ～
活動要旨	アパートの1階を全て借り切り、 独自事業の地域開放スペース 認知症デイサービス 認可外保育施設の3つの事業を行う。皆が一つの空間に集まることにより、自然な関わり合いが芽生え、支え合う力を生み出す力へと導かれている。
応募者	NPO法人 地域の寄り合い所 また明日 森田 和道
連絡先	〒184-0014 東京都小金井市貫井南町 4-14-14 ヴィレッジ・パル 1F

活動名称： 共生を軸とした認知症地域支援の取り組み

～ 支えられる存在から支え合う力を生み出す存在へ～

1. 概要

【『また明日』とは？】

NPO法人地域の寄り合い所また明日（以下『また明日』）は、大家様と隣近所の皆様の大きなご理解のもと、東京都小金井市内にあるアパートの一階を全て借り切って、平成18年12月より本格的な活動を開始いたしました。

少子高齢化が進行した現代の地域社会の中で、悩みや問題を抱える方々やご自分の心の居場所を求める方々の拠り所となることで、「また明日も頑張ろう！」という心の余裕を感じて、今度はその人達が自分の周りの人に余裕をお裾分けしていただくことが、『また明日』の願いです。

つまり、専門施設が直接すべての問題を解決するのではなく、地域に暮らす方々ご自身が、再び地域社会の『支え合う力』の担い手となることで問題が解決に導かれていくよう、その力を引き出し側面から支援していくことを目的としています。

【『また明日』の活動】

『また明日』は目的達成の為に、下記の3つの事業の運営を一体的に行っています。

（1）独自事業の地域開放スペース『寄り合い所』

いつでも気軽に立ち寄って交流することができる場所の提供です。利用料は「100円程度」で、登録や予約の必要はありません。『また明日』の理念を実行する為の中心事業と位置づけています。また、介護保険や保育に当てはまらないケースは、全て『寄り合い所』でお受けするようにしています。

（2）小金井市指定の認知症専門デイサービス『また明日デイホーム』（以下『デイホーム』）

定員12名の認知症をお持ちの方専門のデイサービスです。『また明日デイホーム』の介護方針は、ご利用者様の心が動くような環境や声掛けをとおして、お一人お一人の自然な体の動きを引き出す介護の実践です。

（3）認可外保育施設『小さな保育園 虹のおうち』（以下『虹のおうち』）

定員8名の文字通り小さな保育園です。『虹のおうち』の保育方針は、園児と保護者の皆さんに“第2の実家”と感じていただける雰囲気大切にしつつ、武蔵野の自然の力を借りながら、園児自身が感じ、園児同士が関わっていく保育の実践です。

この3つの事業は、仕切りの無い同一空間で行われています。しかし、集った方々がずっと一緒に過ごすのではなく、『寄り合い所』『デイホーム』『虹のおうち』それぞれに職員を配置して、別々の時間が流れるようにしています。そして、3つの事業を統括するコーディネーターも配置して、皆さんが一つの空間に集っていることによる自然な関わり合いが其処彼処で芽生えるように配慮しています。



『また明日』全景



室内面積は200平米を超えます



若いお母さん方とらっきょづくり



楽しそうな子ども達についつい釣られて



野川の川渡り！（お年寄りにはいつも怒られます・・・）



自然と笑顔がこぼれます

【小金井市の紹介】

小金井市は、東京都のほぼ中央、武蔵野台地の南西部にあり、都心から約 25 km 西方に位置しています。市の東は武蔵野市、三鷹市、西は国分寺市、南は調布市、府中市、北は小平市、西東京市に接しており、市の中央部には中央線が東西に走っています。面積は 11.33 平方キロ（東西 4.1 km、南北 4.0 km）江戸時代、玉川上水が完成し、新田開発が活発となり、急速に集落が発達しました。戦後、住宅都市化が進み、人口が約 4 万人となった昭和 33 年 10 月 1 日、市制を施行しました。その後、人口は急増し、現在は、11 万人を超える人が小金井市で暮らしています。市内に大学、研究施設が設置され、住宅都市、文教都市としての性格が強いまちです。（小金井市公式 WEB より抜粋）



【町内の紹介】

『また明日』は、そんな小金井市の南西部に位置する貫井南町に在ります。この町は北部に遊歩道や川べりが整備された野川が東西に流れ、近隣の方々が多く散策される憩いの場所となっています。郷土芸能の貫井囃子は全国的にも有名です。古くからの地縁血縁の濃い土地柄に新興住宅の出現と共に新しい住民が入って来たという、東京都多摩地域に観られる典型的な地域ですが、排他的な土地柄では無く、古い住民も新しい住民も混ざり合い協力しながら生活されており、『また明日』に隣接するけやき公園で行われる夏の盆踊り大会、1590年に創建された貫井神社を中心とする秋の豊禮祭は、地域を揚げたの一大イベントとして、自治会を中心に子ども会やPTAなど多くの方々が関わって、毎年盛大に盛り上がっています。

【市内の状況】

小金井市内の認定調査において調査員が自立度 以上と判断した人数は、平成 20 年 9 月の時点で 1,700 人半ば。自立度別の内訳は、自立度 a b 900 人強、自立度 a b 500 人半ば、自立度 200 人強、自立度 M 60 人余となっています。

次に、今後の小金井市における認知症高齢者の出現見込みですが、65 歳以上の人口推計と照らし合わせた数値は、下表のとおりとなっています。

項目	平成17年	推計人口					
		平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
65歳以上人口(人)	18,896	21,021	23,607	25,004	25,828	27,378	28,961
自立度 以上(人)	(1,383)	1,514	1,794	2,100	2,402	2,793	3,099
65歳以上人口比(%)	6.7	7.2	7.6	8.4	9.3	10.2	10.7
自立度 以上(人)	(689)	820	968	1,125	1,317	1,506	1,680
65歳以上人口比(%)	3.6	3.9	4.1	4.5	5.1	5.5	5.8

¹高齢者介護研究会(厚生労働省老健局長の私的研究会)による報告(平成15年6月26日)の65歳以上人口を小金井市の高齢者人口推計値にあてはめた見込み数(平成17年のカッコ内は、平成17年9月30日現在の実数)

【サポーター数】

「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環である認知症サポーターの小金井市内での数は、平成21年10月現在で市内のメイト18名(2名追加予定)によって135名を養成。11月には、小金井市後援によって創作された介護予防の『さくら体操』の参加者約120名と民生委員80名への養成が決定しています。

【施設の整備状況】

市内の各介護保険施設の整備状況は下表をご参照下さい。市の面積や65歳以上人口に比べて、通所施設が充実していることが小金井市の特色であると云えるのではないのでしょうか。

介護保険サービスの種類	事業所の数	定員の合計	備考
地域包括支援センター	4		
ケアプラン相談の事業所	22		
ホームヘルプサービス	24		
訪問入浴	1		
訪問看護	3		
訪問リハビリ	2		
一般型のデイサービス	15	253	
リハビリ型のデイサービス	7	145	
認知症の方専門のデイサービス	7	94	
認知症の方専門のグループホーム	3	32	
夜間専門の訪問介護	1		
ショートステイ	5	18(特養2箇所計)	その他老健等の空床利用
特別養護老人ホーム	2	196	
老人保健施設	2	197	
介護療養型病棟	1	22	
有料老人ホーム	6	169	

【その他】

更に、各介護保険事業者同士での横の連携が密で、介護保険事業者連絡会と市が協力して、サービス種類ごとのブースを設けた市民向けの介護フォーラムを開いたり、各事業所の有志数十名が加わって任意団体を立ち上げて、研修や交流会、市内の商店会・市民団体・福祉団体等と連携した地域活動も行われています。

3. 活動の内容

【『また明日』の日常】

ここで『また明日』の日常風景の一こまをご紹介します。

朝8時から、ぞくぞくと『虹のおうち』に園児が保護者の方と来園します。園児達は部屋に入るや否や、思い思いにお気に入りのおもちゃや絵本を手にとって遊び始めます。

『デイホーム』のご利用者様がいらっしゃるのは9時30分を過ぎた頃から。それぞれ送迎車に乗ってお越しになります。

『デイホーム』の皆さんも勢ぞろいしたところで、園児達も交えて朝のご挨拶。その後、園児達はお散歩の時間となり、ご希望される『デイホーム』の皆さんとお出かけです。

よく行く散歩コースは近所にある野川。お年寄りの心配を他所に、土手や川の中をどんどん進んでいく園児達。見かねたあるお年寄りが「ちゃん、危ないよ！戻ってきなさ~い！！」とこれまたどんどん進んでいきます。この方はレビー小体型認知症で、中程度のパーキンソン様の四肢の震顫や緊張がありますが、「あの子が危ない！」という心が動いたことで、自然と身体が動いています。

園児達に同行されない『デイホーム』の皆様方は、室内でゆっくりとご利用者様同士でお喋りをお続けになっています。ここでも、共通する話題や興味の有る話題に誘われて、お隣やお向いの方々とまさに井戸端会議状態です。また、なつかしいメロディーの数々が、どなたからともなく自然と口ずさみ始められてもいます。

昼食はスペースと園児達のお昼寝の関係上、先に園児達がテーブルに着きます。『デイホーム』の皆さんはその間、お喋りを続けたり子ども達の食事を見守ったりという時間をおすごしになります。

午後は、園児達はお昼寝の真っ最中。『デイホーム』の皆さんは別室に移動して体操の時間を過ごされることが多いですが、お散歩に出かけられたり、職員運転の車で遠出される方もいらっしやいます。

16時になると『デイホーム』のご利用者様は送迎車でご帰宅です。車が出発する際は、園児達がテラスまで出てきて「おじいちゃん、おばあちゃん、さようなら~！」とお見送り。

園児達の親御さんが迎えに来るのは、その後19時頃までの間です。

そして、このような時間の経過の中に、『寄り合い所』に幼児と若いお母さんや学校帰りの子ども達が「こんにちは」と遊びにいらして下さっています。

【『寄り合い所』について】

『また明日』の一番の特徴は、各部屋の仕切り壁を取り払って一つの空間にした上で、地域開放スペースと、認知症をお持ちの方専門のデイホーム及び認可外保育所を、同時に存在させていることにあります。

当ホームページや口コミで『また明日』をお知りになった方々の多くは、この多世代が同一空間に存在するという活動そのものに対して、『地域社会の共生』を実現させているとご評価いた

だいています。このことはとても有りがたいことではありますが、実は『また明日』の目的は違うところにあります。

私たち『また明日』の目的は、専門施設が直接すべての問題を解決するのではなく、地域に暮らす方々ご自身が、再び地域社会の『支え合う力』の担い手となることで問題が解決に導かれていくよう、その力を引き出し側面から支援していくことにあり、『寄り合い所』を、その目的を実現する為の中心事業と位置づけています。

次に、その『寄り合い所』の活動内容と昨年度の実績をご紹介します。

(1) 児童の健全育成を図る事業

児童が、学校から帰宅した後に友達同士誘い合っの来所や、隣接する公園『けやき広場』に遊びに来た児童が、そのまま当所に「こんにちは」と出入りして、『虹のおうち』の園児や、『デイホーム』のご利用者様との交流を重ました。また、学校を含む各機関や子育て支援機関との連携をとおして、児童の体調不良から医療機関での急性内臓疾患の早期発見に繋がったケースや、いじめによる不登校の相談から生徒自身が新たな進路を見出したケースもありました。

春休み・夏休み・冬休みには、小金井市社会福祉協議会を通しての体験ボランティアや、フリースクール在籍の高校生グループを、10月には貫井南児童館主催のハロウィーンパーティーの児童を、冬休みには餅つき大会に参加の児童を、2月には市内在住中学生の職場体験を、それぞれ受け入れました。

< 各月延べ利用者数 >

児童の健全育成を図る事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象者: 小・中・高校生	35	9	23	37	57	18	15	18	38	2	15	15	282 名

< 活動風景 >



夏休みに遊びに来た小・中学生とともに、皆でスイカ割り



貫井南児童館主催のハロウィーンパーティーの児童が、お年寄りを訪ねて。



餅つき大会



2月の中学生職場体験の一コマ

(2) 地域の寄り合い事業

地域住民の利用は、主に小金井市在住の住民の方々が、お茶やお喋りを目的に訪れる他、乳幼児と若い母親の方々が育児中の息抜きや、誰かに話を聴いてもらいたい・居場所が欲しいといった目的でご利用なされています。また、肉親の体調不良の話題から医療機関での脳疾患の発見に繋がったケースや、郷里に暮らす肉親の変化からその地域の包括支援センターに繋がったケースもありました。

グループ・団体では、当法人所在地の自治会や近隣保育園の親子の会・主婦グループの会合目的としてのご利用が有りました。

見学者は、当法人に対する口コミや当法人開設のホームページ等の広報によって得られた情報を元に、ご興味を抱かれた市外や県外在住の個人・団体で占められています。

個人によるボランティアの内訳は、当初は『寄り合い所』をご利用されていた親子が、「私にも何か出来ることはないか?」とお申し出下さった方々が半数と、『また明日』の存在を知った市内外の方々からのお申し出が半数となっています。

団体によるボランティアは、法人役員と旧知の音楽グループによる音楽会が月に一度、近隣の婦人会が献立から調理までの一切をお引き受け下さっての昼食会が週に一度の割合で行われている他、障がい者団体の紙芝居ボランティアによる訪問が1月から月一度の割合で始まりました。

なお、この障がい者団体による紙芝居ボランティアの訪問は、引きこもりがちな知的障がい者の方々の外出の動機づけにもなっています。

< 毎月延べ利用者数 >

地域の寄り合い所事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象者: 地域住民(一般)	11	5	8	4	0	1	4	0	3	4	0	4	44 名
地域住民(親子)	24	17	9	13	8	11	8	9	11	9	6	12	137 組
自治会会合				1		1							2 団体
近隣各団体の会合			1							1			1 団体
見学者	2	0	0	4	2	0	7	1	2	0	0	1	19 名
ボランティア(個人)	16	13	9	13	2	7	12	10	8	12	6	9	117 名
ボランティア(団体)	2	2	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	19 団体

<活動風景>



寄合い所を訪れた育児中の親子とお年寄りが育児談義



障害者団体による紙芝居のボランティア

4. 活動の成果

【関わり合いから生まれたもの】

上記のような交流の中にあつて、『デイホーム』のご利用者様は、常に周囲から支えられるだけの存在であつた訳ではありません。『また明日』での日常の中で、『虹のおうち』の園児達や『寄り合い所』に立ち寄る方々に、『デイホーム』のご利用者様が主体的に「いい子だねえ、よしよし」「よーくいらっしやいました」等と心を傾けて関わつて下さつています。

次にご紹介する幾つかの事例は、そんな人と人との関わり合いから生まれた成果と云えるでしょう。

(1) 過去の人と人の関わり合い

～ 頑なに福祉サービスを拒む認知症をお持ちの独居高齢者の方の事例～

Aさんは、現状は福祉サービスが必要な状態になっているにも拘わらず、「いえ、私は自分のことは自分で出来ますので、市役所（福祉サービスは市役所の仕事と思つておられた）の世話になるつもりはありません！」と、通所やホームヘルプのご利用を頑なに断り続けていらつしやいました。ケアマネージャーから当方にご相談を受けた際は八方ふさがりの状態で、「如何にしてお通い頂くか」が大きな課題でした。しかし、偶然にも『寄り合い所』によくお立ち寄りいただいている さんが、Aさんにご近所付き合いがあつたことから、「徐々にさんに会いにいらしていただく」という名目で先ずはご来所いただきました。『虹のおうち』の園児達も存在する『また明日』にいらつしやつたことで、「私にも何かお手伝いできることはありませんか？」と仰つて頂けるようになり、今では子ども達へのボランティアという名目で週に複数回ご利用下さつており、現に毎回、園児達を優しく抱きしめて下さつています。

(2) 現在の人と人の関わり合い

～ 『また明日』での交流から生まれた事例～

当初は自分と我が子の居場所を求めて『寄り合い所』を訪れていた若いお母さんが、日を重ねるごとに『デイホーム』のご利用者様とも関わり合いが生まれたある日、買い物で立ち寄つたスーパーで、『デイホーム』をご利用されている Bさんと、そのご家族らしき人の2人連れの姿を偶然お見掛けしたそうです。この若いお母さんは、ご家族とは面識が一切ないにも拘わらず、「Bさんのご家族ですか？いつも、Bさんに子どもを可愛がつてもらっています」と、思わず声を掛けてしまったそうです。実はBさんにご家族は親一人子一人の世帯構成で、ご家族は日中仕事で不在という典型的な日中独居状態。加えて、Bさんは認知症に伴う不安症状により、近隣の方々と度々トラブルを起こして、ご家族としても常に居た堪れないお気持ちを抱えていらつしやいました。ご家族はその時に声を掛けられたことが、「住民の中にも親を見守つてくれている人がいる」という安堵を感じて非常に嬉しかったと、後日お話しして下さいました。

(3) 未来に繋がる人と人の関わりあい

～『虹のおうち』の園児の事例～

『虹のおうち』に月極め保育でお預かりしている園児のご家庭は、何れも典型的な核家族世帯です。しかし、『また明日』で高齢者の方々と同一空間に存在することが当たり前の日常を送っている影響が、どの園児も高齢者の方々の存在に全く気後れをしません。Cちゃんのお母さんのご実家では、Cちゃんの祖父は車椅子・祖母は軽度認知症で介護の手が必要ですが、他県にお住まいの為、Cちゃんのお母さんが遠距離介護をなさっております。Cちゃんが『虹のおうち』に通うまでは、ぐずるCちゃんをなだめながら遠距離介護もこなさなければならぬという大変な状況であったそうですが、今では、Cちゃん自ら祖父の車椅子を押そうとしたり、入浴を嫌がる祖母に優しく言葉掛けしながらボタンを外して、祖母が入浴をする気持ちに変化したりと大活躍なのだそうです。Cちゃんのお母さんは、入浴を嫌がる自分の母親に、優しく語り掛けながらボタンを外す我が子の姿を目の当たりにして、声掛けの姿勢の大切さに改めて気づかされたとも仰っていました。

このような事例は、『また明日』のスタッフが幾ら専門的な技術を以って日夜奮闘していたとしても、その代わりを勤めることはできません。『デイホーム』の皆様を含めた事例に登場した方々が、主体性を持って相互に関わり心を傾け合ったからこそ、埋もれていた力の掘り起こしや、新しい力の芽生えが可能となったのだと考えます。

認知症のAさんも、心の居場所を求めた若いお母さんも、幼いCちゃんも、今まで支えられる存在であったのが、『寄り合い所』での人と人との関わり合いの中で、支え合う力を生み出す存在へと変化された瞬間です。

5. 今後の課題

【街づくりに求められるもの】

少子高齢化が進んだ現代の地域社会では、安心で安全な街づくりが求められています。しかし、福祉・教育・安全等それぞれの専門職や施設が既存の拠点として存在していても、24時間・365日に亘って全ての事案を解決することは不可能です。

今後は、既存の拠点である専門家や施設自らが事案の直接的な解決者になるだけでなく、それぞれが横の連携を重視して、常に地域社会全体を見据えて解決を目指すことや、地域社会や各世帯に確実に存在する「他者を気遣い支え合う力」を上手に引き出していくことが必要です。その為には、認知症の方々や子どもや社会的弱者と云われる方々の存在を含め、地域社会で暮らすお一人お一人の存在を新しい拠点として捉え、その存在を各専門施設が連携してサポートしていくことが、安心で安全な街づくりに繋がると考えます。さいわいにして、我が街には連携の土台が既に存在していますので、今後も『また明日』は連携に積極的に関わり、その発展に貢献して

いきたいと考えています。

また、認知症になってもだいじょうぶな街は、子どもや社会的弱者と呼ばれる方々は勿論、どんな方々にとっても安心して安全な街であることを広く周知していただくことに努めるとともに、認知症の方々が、そのような街づくりの担い手側となっていただけのようにサポートしていくことは、『また明日』の大きな課題の一つです。

【さいごに】

私達『また明日』は、まだまだ未熟な存在です。活動の中心に据える『寄り合い所』にしても、現在は育児中の若い親世代の方々や未成年が主で、壮年・介護保険非該当の高齢者の方々や障がい者の方々、外国籍の方々のご利用はそれぞれ僅かです。恥ずかしながら、市内外の広い範囲において多くの皆様にご周知いただいているとも言い難く、私たち『また明日』が今後取り組まなければならない課題は数多い状況です。

しかし、悪戦苦闘の毎日の中で、ふと芽生える『また明日』に集う方々の関わり合いを大切に、そこから生まれる支え合う力が、地域社会のあちこちで水面の波紋のように広がっていくことを願い、日々精進する毎日です。



よしよし、どうしたの？



そっと布団をかけて・・・